

戦国城館研究の最前線



描かれた松森城（『野初絵図』宮城県図書館所蔵）

全国に3万ヶ所以上はあるといわれている城館跡は、私たちにとってもっとも身近で人気のある遺跡といえるでしょう。1980年代頃から本格的にスタートした城館跡の研究は、その後目覚ましい発展を遂げ、もはや中世・戦国時代研究に欠かせないものとなっています。その一方で、さまざまな問題も噴出してきており、大きな岐路に立たされつつあるのが現状です。

東北地方は魅力的な城館跡が多く存在しながら、他の地域に比べて、研究自体が遅れているといわざるをえません。今、城館研究で何が問題となっているのか、今後の城館研究はどうあるべきか。東北地方の城館研究が秘めるさまざまな可能性について、考える機会とします。

基調講演

さいとう しんいち
齋藤 慎一 【江戸東京博物館学芸員】



「中世城館の変遷と北日本」

専門は日本中世史。主な著作に『中世東国の領域と城館』（吉川弘文館、2002年）、『中世東国の道と城館』（東京大学出版会、2010年）、『日本城郭史』（共著、吉川弘文館、2016年）など。



宮城県川崎町 前川本城の堀

講演1



かんの まさみち
菅野 正道 【元仙台市史編さん室長】

「城・町・道 ―宮城県における拠点的城館の様相―」

専門は郷土史。主な著作に『せんだい歴史の窓』（河北新報出版センター、2011年）、『イグネのある村へ ―仙台平野における近世村落の成立―』（蕃山房、2014年）、『伊達政宗と時代劇メディア』（共著、今野印刷、2016年）など。

講演2



たなか のりかず
田中 則和 【宮城県考古学会会員】

「赤色立体地図で探る南三陸地域の城館」

専門は中世考古学。主な著作に『講座 東北の歴史 6 生と死』（共編著、清文堂出版、2013年）、『南三陸の山城と石塔―東日本大震災後の調査でわかったこと』（河北新報出版センター、2018年）、『妙樹禅尼の逆修「石塔」造立―南北朝期南三陸の時空（序論）』（『六軒丁中世史研究』第17号、東北学院大学中世史研究会、2019年）など。

講演3



たけい ひでふみ
竹井 英文 【東北学院大学文学部歴史学科准教授】

「城館から探る戦国時代の地域社会」

専門は日本中近世史。主な著作に『織豊政権と東国社会』（吉川弘文館、2012年）、『シリーズ織豊大名の研究 6 最上義光』（編著、戎光祥出版、2017年）、『戦国の城の一生』（吉川弘文館、2018年）など。

主催 | 東北学院大学東北文化研究所・文学部歴史学科

問合せ | 東北学院大学 研究機関事務課 東北文化研究所公開講座係 TEL.022-264-6401 FAX.022-264-6530

2019年

11/2

土曜日

13:00~17:00

会場

東北学院大学
土樋キャンパス
8号館5階
押川記念ホール

入場
無料

申込不要

直接会場に
お越しください